

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	GH木かげ (そよかぜユニット)		
所在地	千葉県千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	2015年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者さんの意思(想い)を大切に、入居者さんやご家族さんが「木かげで良かった」と感じて頂けるグループホームを目指しています。                  私達の理念は「笑う門には福来る」です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	把握している。管理者と職員間で共有をし、常に笑顔で接している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が畑仕事を手伝って下さったり、大きなイベント時なども安心して日常的に交流したりしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は認知症の事を勉強し、地域の方々(ご見学時)に認知症についての説明等を行っている。また近隣中学校の生徒さんに体験学習を通し地域貢献をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の割合で会議を開催している。地域の方々や入居者さんのご家族などに意見を聞き、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから密な連絡とは言えないが、疑問点や不安点などの相談をさせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での研修や勉強会などに参加をしホームに持ち帰り、研修に参加をしたスタッフが中心となり「どのような行為が拘束にあたるのか」などを話し合い、拘束をしないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームにて勉強会をしたり、研修に参加して見過ごさないように注意をしている。虐待は介護職員にとって絶対にしてはいけないと徹底している。入居相談のご家の介護の悩み等にも耳を傾け、自宅での虐待の危険を感じ取る努力もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については、東京大学の市民後見人講座の現地研修の受け入れをしている。自立支援制度については、実際は活用できていないが、入居者さん個々の「今できること」の把握と共に実践して頂いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族からの不安に感じていることなどを聞き取り、対応している。また疑問等があれば分かりやすく説明している。常に連絡が付く体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族参加のケース会議や面会時などに意見や要望を聞いたりしている。社長参加の話し合いの場でご意見ご要望を伝え、改善等に反映されている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員間で話し合いの場を設け、スタッフの意見・要望などを聞き、代表者(社長)に提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の意見や勤務状況などの希望を聞き取り、職員一人一人が向上心を持ち働きやすい職場環境になるよう、代表者に会議にて要望等を伝え、実行に移している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った研修や勉強会を進め、勤務の調整をし参加できるようにしている。研修・勉強会のその日のうちにアドバイスや色々な事など教えてくれる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は個人的に取り組んでいるスタッフもいるが、他の施設見学などは最近はない。研修などに参加して同業者と話を増やしたりしてサービスの質を向上していきたい		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に事前に聞いたりして不安や要望などを職員間で話し合いの場を持ちご本人が困っていればその場で話を聞いたりして信頼関係を務めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケース会議前の事前要望や会議の際、困っていることや要望等率直なご意見をなど伝えて下さるので、信頼関係ができていくと感じる。これからも努めていく			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様子を見てどんな支援などをしていけばよいか職員間で話し合いをしている。ご家族さんも話し合いの場に参加して頂いている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は認知症の方だけれどもその人その人の残存機能を活かし、その方にあったお手伝いなどして頂きながら信頼関係を築いている。必ず感謝の気持ちを伝える。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族で入居者さんのことを第一に考えて話し合いをしたり、日頃から会話の中でご家族さんの名前を出させていただき、安心して頂ける様支援していると思います。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの物などを居室に置いて頂いている。なじみの方々には気軽に来所して頂ける様にしている。賀状交換や電話での会話を楽しんで頂いている。馴染みの場所等が遠方の場合、職員とお話などして懐かしんで頂いている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さんが孤立しない様に、席を配置したり皆様に体操やボール遊びをしたりして利用者様同士の関係を支え職員が間に入り支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了(退去後)してもホームのイベント時など、ご家族様に声をかけ参加して頂き、終了後もご縁が切れぬよう関係性を大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話などで、その方の馴染んだ言葉づかい(方言等)を取り入れ、安心した会話ができるようにしている。なるべく近い答えが見つかるまで時間をかけ、ご本人の希望等を聞けるようにしている。どうしてもご本人が表現できない場合は、本人本位で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の前後にどのような環境で生活していたかなどの詳細をご家族さんに記入して頂き、その事実をまとめ職員間で共有し入居者さんに合ったサービスに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日どの様に過ごしたかなどを記録に残し、変化時など職員間で話し合い共有し、対処している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態の把握に努め、管理者と職員家族様も交えた会議などを定期的に行き、ご家族の意見を取り入れ介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、いつもと違う様子など変化がある時は記録に赤字で記入をし、ケース会議などで意見交換をし介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんには、今しか出来ないことをして頂いたり、今しか行けないところに行ってもらったり、個別で柔軟な支援やサービスに取り組むことが出来きている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか地域資源の活用が出来ていないが、いろいろなボランティアさんに木かけに来ていただいている。それなりに楽しんで頂いていると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係築いており、先生がご本人に納得するまで話して下さりご家族さんの希望なども親身になって支援して下さっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の方が居ないので、かかりつけ医に相談して受診などを受けている又休診日などにぶつかると休日診療を探し受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医に行き病院を紹介して頂いている、直ぐに手配して下さる。又管理者と病院の方で情報を伝え合い退院した後のケア等も十分に相談し、実施出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様との話し合いを共有し、担当医と連携に努めている又訪問看護師との連携にも努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期だが、応急手当・避難訓練等の事故発生時の勉強会を行い、実践力を身に付けるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回の消防署の協力の他、定期的に避難訓練を行い、管理者・職員で学び利用者さんの安全第一に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が歩んできた人生を尊重し、プライバシーを傷つけない様な(否定しない)声掛け対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思い・気持ちを考え自己決定できる様働きかけている又会話のなかで希望や要望、不安や不満を聞きだす様に心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんに、その都度どう過ごしたいかは聞いていないが、一人一人のペースに合わせ声掛けをし希望に沿った支援ができるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容の他に女性では、お化粧品やマニキュア等でおしゃれをして頂いており、男性は髭剃りをまめにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんと職員と一緒に洗濯・食事の準備と片付け・居室の掃除をしている。必ず感謝の言葉を忘れずに伝えている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取表や、水分表等を利用し細かく記録し一人一人の状態に応じた支援をしている水分は、主治医との相談の下一日1000ccを目安に飲んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行いその後入れ歯を外して洗浄させて頂く場合によっては吸引歯ブラシを使用する場合もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況によってリハビリパンツ・布パンツにパット又トイレ誘導をまめに行いご本人にあった排泄の介助に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に効果のありそうな体操を取り入れたり、ホットタオルでお腹を温めたり入浴でマッサージをし血行を良くしたり工夫をし取り組んでいる。場合によっては、牛乳・ヤクルトなどの乳性飲料を定期的に飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんに声掛けをし、希望やタイミングに合わせて、気持ちよく入浴出来るよう個々に添った支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時の情報を共有し記録等を参考にしその都度その方に合った生活習慣や安眠を作れるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時、主治医と相談しながら変化が有ればその都度処方して頂いている又一人一人の処方箋を職員で共有し理解し内服の理解も充分間違いの無い様確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんが毎日喜びや張り合いのある日々を過ごせるよう職員で共有し工夫しながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と出かける方もいるが、普段では近くのコンビニや初詣・お祭りのイベント参加等地域の人々やご家族との協力の下出かけられる様支援している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい為、管理者・ご家族で了解し個々ではお金は持っていない。買い物の際は立て替え金を使用している。ご希望のある方はご家族の理解の下ご本人にお金の管理をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご様子で、職員からお声掛けさせていただきご家族やなじみの方に電話をして頂いている。賀状等の交換をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、花やぬいぐるみ等を飾っている室温・湿度は毎日居心地よく過ごせる設定に心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のホールでテレビやカラオケ等思い思いに過ごせる空間に工夫している又ソファでゆっくり過ごせる様になっており、自由に席を代わって他の方とおしゃべり出来る様配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの物は持ち込めてはいないが、ご本人の今まで使用していた食器などなるべく持ち込んで頂けるようにしている。アルバムや家族写真など思い出の品をなども持ち込んで頂き。話題作りの参考にさせて頂き。ご本人の居心地がよくなるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る範囲で日頃よりお手伝いをして頂いている無理強いはせず出来る時だけやって頂いている。ほんの少しのヒントで出来る・わかるの自信を持っていただいている。		